

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

東かがわ市長 上村 一郎

市町村名 (市町村コード)	東かがわ市 (37207)	
地域名 (地域内農業集落名)	松原・伊座・帰来 (森芝町、前場、松西南、松西北、松東西、松東東、新川、小松原上、小松原下、 下伊座、中伊座、上伊座、法月、帰来上、帰来下)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年4月20日 (第8回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

松原・伊座・帰来地区では、狭小で不整形な農地が多く、借受希望も少ない。農業改良普及センターや土地改良区、農業協同組合等の関係機関と連携し、地域ぐるみで多様な担い手の確保や既存の担い手の育成とサポートの取組みを進める必要がある。
また、ため池・水利関係の管理をする者が減っており、各耕作者の負担が増えている。
販売農家が少なく、小規模経営が大半である。現在の担い手のみでは地域農業を守るのは難しい。

(2) 地域における農業の将来の在り方

農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化、パイプライン化、農道整備等の基盤整備への取組みについて、積極的に推進していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	131.8 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	131.8 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

平地にある、条件の良い農地では集積・集約化を進め、山の傾斜にある、条件の悪い農地は池の水量が足りなくなる等の課題があるため、周囲の農地に影響を与えないような管理を目標にする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農機具を使用できないような狭小な農地については維持管理に努め、比較的、形状等の条件の良い農地については集積・集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構と農業委員会で連携し、集積・集約化に向けたマッチングを進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
中伊座、上伊座、法月、帰来上地区で実施済み、実施予定なし。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
新規就農者など新たな担い手の育成とサポートに向けて、耕作しやすい環境づくりを、農業改良普及センターや土地改良区、農業協同組合等の関係機関の協力を得ながら地域ぐるみで進める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
耕作者の減少・高齢化、兼業農家の増加に伴い、管理が難しくなるような農地については活用していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携	<input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①イノシシ・サル被害対策として、ワイヤーメッシュを設置するとともに、ジャンボタニシ被害も散見されるため、卵を見つけ次第除去する。
 ⑦ため池の貯水量が少なく、すべての農地で耕作すると水量が不足するため、労力不足により耕作が難しい農地では最低限の水張りを目標にする。